

【佳作】

透明な存在

角田市立北角田中学校

二年 目 め 黒 莉 り 桜 お

水は、あまりにも身近にありすぎて、普段その存在を深く考えることは少ないです。しかし、ふとした瞬間に「水ってすごいな」と思うことがあります。私にとって水は、ただの飲み物や生活に必要なものというだけでなく、心を落ち着かせたり、記憶を呼び起こしたりする、不思議で大切な存在です。私は小さい頃、プールを習っていました。夏の暑い日に水に飛び込むと、全身が冷たさに包まれて、まるで別の世界に入ったような気がしました。水中では音がこもり、時間の流れがゆっくりになるような感覚がありました。その不思議な静けさと浮遊感が大好きで、長い時間泳いだり、水の中に潜ったりして過ごした記憶が今でも鮮明に残っています。水は形を持ちません。しかし、器に合わせて自由自在に姿を変えることができます。その柔軟さとどんな状況でも流れ続ける力強さには、学ぶべきことがたくさんあると感じます。人間関係や生活の中で思い通りにいかないことがあっても、水のように柔らかく受け止め、流れを止めずに前に進んでいけたら、もっと穏やかに生きていけないかと思っています。また、水は命の源でもあります。人間の体の約六十パーセントは水でできていると言われていすし、水がなければ植物も動物も生きていくことができます。私たちは、毎日当たり前のように水道の蛇口をひねって水を使っていますが、それがどれほど恵まれたことなのか、つい忘れてしまいます。世界には、きれいな水を手に入れることができず、命の危険にさらされている人々がたくさんいます。そうした現実を知ったとき、私は「水を大切にしよう」という思いが強くなりました。学校で学んだ水の循環のしくみも、私の水への考え方を変えるきっかけになりました。雲となり、

雨となり、川を流れ、海へと帰る、そんな壮大なサイクルを繰り返しながら、水はこの地球をずっと巡っています。その中には、何千年前に恐竜が飲んだかもしれない水も含まれているかもしれないと知って、なんだか夢のある話だと感じました。水は姿を変えても、ずっと地球のどこかに存在し続けているということが、とても神秘的で面白いと思います。最近では、気候変動の影響で大雨や洪水が増えています。水は命を支える一方で、ときに大きな災害を引き起こします。自然の力の前では、人間はともも小さな存在だと実感します。しかしだからこそ、水と共に生きるために、自然を大切にしながら上手に付き合っていくことが大事なのだと思います。自分たちの生活と自然のバランスを考えながら、未来のために行動していくことが求められていると感じます。水は、目に見えない心の変化にも寄り添ってくれる存在です。泣きたいとき、流れる涙も水です。つらいことがあっても、涙を流すことで少しだけ気持ちが軽くなるのは、水が心の中の痛みを外へ連れ出してくれているからかもしれません。うれしいときや感動したときにも涙が出るように、水は心の動きと深くつながっているのだと思います。私はこれからも、水のようにしなやかでまっすぐな心を持って生きていきたいです。そして、日々の暮らしの中で「当たり前」のように存在している水に、もっと感謝の気持ちを持って接していこうと思います。